

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602322
法人名	有限会社 エルダリースタッフ
事業所名	グループホーム 虹の里
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市高良内町字脇畑172-1 (電 話) 0942-45-5177
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 12月 15日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 6人, 非常勤 9人, 常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	<u>新築</u> /改築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費	有
敷 金	有(100,000 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低 57 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡辺内科医院、佐々木外科医院、毛利歯科医院、(株)D・T・B
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市街地からは少し離れた閑静な新興住宅地の一角に位置している。モダンな2階建築の1、2階での2ユニットであり、調査日には男性10名、女性8名の利用者であった。社長、施設長共に認知症高齢者へのケアに熱意があり利用者に接することを日課としており、誠実で温かな人柄は管理者、職員、利用者をも温かく包み込んでいる。毎週土曜日の勉強会、月1回の全職員会議ではサービスの質の向上にむけ取り組んでいる。また、地域住民や自治会等から自主的な支援もあり地域に密着したホームであり、更なる発展が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点等は全職員で検討し、速やかに改善されサービスの質の向上に活かされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の全項目をコピーして全職員に配布したことで、それぞれにいろんな気付きがあり、改善に向け取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、家族、市職員、地域の役員(町内会長等)の参加を得て活発な意見や提案があり、直後の職員会議で検討しサービスの向上に活かしている。また、火災訓練時に地域からの参加希望もあり支援の輪が広がっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ホームの玄関に「意見箱」を設置している。また、家族が訪問時には、意見や苦情が職員に気軽に言える雰囲気であり、意見等は職員会議等で検討し、改善に向けて取り組まれている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として自治会、老人会への行事(どんど焼きでのぜんざい会、公民館行事でのおでん、子供会行事での夏祭り等)に招待されたり、ホーム菜園での野菜の手入れや、近隣の方の自家製の野菜をいただいたり、火災訓練時での自主的な参加支援の申し出もあり、地域との連携は良好である。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者とのケアに誠実なスタッフが“一緒に集い”“一緒に生活し”“一緒に行動し、信頼しあい”“一緒に生きがいを見つけていく”ホーム、との理念を掲げている。地域との密着等については理念に盛り込まれていない。	○	地域と密着したケアを実践されており、理念に盛り込むことで職員の一人ひとりが更に認識を深めることができる為、理念として掲げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝の送り出し時に唱和すると共に、常に理念を認識し、ケアの実践に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会、老人会の行事(どんど焼きでのぜんざい、公民館行事でのおでん、子供会行事での夏祭り等)に招待されたり、ホーム菜園での野菜の育て方の指導や収穫の手伝いに近隣の方が来てくれるなど親交している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の全項目を全職員にコピーして配布したことで、いろんな気づきが出ている。評価を活かし改善に取り組んでいる(例えば、家族会の結成を検討し、サービスの向上を図る)。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、家族、行政職員、地域の役員(町内会長等)の参加を得て、活発な意見や提案もあり、直後の職員会議で検討し、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の長寿介護課とはメールや出向いての相談、情報交換を行っており、例えば、ホーム周辺の環境整備等を相談している。また、市が開催する研修会には積極的に参加しサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関しての資料を作成し、毎週土曜日に行なっている勉強会で学習し、必要時には活用できるように知識をつけている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「虹の里だより」を発行し利用者の日々の状況などを担当者が手書きで記入し家族に送付している。預かり金の金銭出納帳を家族訪問時に領収書添付し確認の上サインを貰っている。訪問が困難な家族には郵送し、電話で了解を得ている。職員の異動についても「虹の里だより」で知らせている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を置いている。意見や苦情等は家族が訪問時に職員に気軽に話してもらええる雰囲気があり、内容を検討し出来るだけ早く改善している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでは職員の異動が多く、その理由は、体力、年齢、病気等であったが、最近では落ち着いてきており1階、2階では介護者の体力等を考慮するなど職員が無理なく勤務できるような工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用では、業務の適応性を重視しており、性別や年齢で排除する事は無い。また、資格試験を目指す職員には社長自ら資料の作成や場所を設定して指導者を招いて、勉強会を行なう等積極的に支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎週土曜日の勉強会では、利用者へのサービスに関して学習がなされているが、職員に対する人権教育、啓発活動には至っていない。	○	市が行なう人権研修等に参加し、内部での伝達研修を行なったり、職員も外部研修に積極的に参加されることが望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の一人ひとりが出来ていること、出来ていないこと等を自己評価する「職能要件書」を提出し、これにより、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を作成している。職員の外部研修や実地職業訓練による学習を積極的に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会(NPO)等を通じての交流もあるが、同業者の相互訪問を行っており、書類の書式作りやサービス等で相互の良いところを見習うことで、より良いサービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に馴染んでもらう為に見学を数回行い、利用者と共にお茶や3時のおやつをいただいたり、囲碁を楽しむなど利用者、職員と一緒に過ごす時間を設定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意なことや趣味を把握しており、調理では利用者から茶碗蒸しや白和えの作り方、味付け、盛り付けを教えてもらったり、菜園での野菜の育て方、水墨画を教えてくれる利用者等、共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時に家族から聞き取ると共に、日常会話の中で食物の好みなどを話題にしながら1対1でゆっくり話を聞いている。また意思疎通の困難な利用者には、日頃の介護の中での表情やしぐさからその思いを汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員が利用者によく話し合い、家族の面会時に家族の意向を聞き取る。主治医や訪問看護師、また利用前の施設職員からの意見も参考にして、職員と家族が十分話し合い検討して作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事前に家族の希望や意向を開き、フロア会議で3ヶ月に1度検討し見直しを行っている。また状態に変化が生じた時は随時見直しを行う。家族参加の会議を定期的に行っており、不参加の家族には電話や面会時に報告を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて主治医やかかりつけ医への受診の付き添いを行う。終末期を迎えた利用者の家族には、食事を提供し宿泊していただく等の柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度は協力医の往診があるが、本人や家族の希望により、随時かかりつけ医やホームの協力医への受診支援を行っている。また数箇所の協力病院とは24時間連絡が取れる体制を整え、緊急入院できる病院とも提携している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアのマニュアルを整え、利用者が入院や重度化した時に本人や家族の意向を聞き取り、何度もかかりつけ医や協力医と話し合い終末ケアの方針を共有している。また職員の精神的な負担や不安解消のため、外部講師を招いて研修を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちやプライドに配慮した声かけや対応がなされ、居室の出入りにはその都度本人の許可を得ている。個人記録なども職員だけが出入りするコーナーに保管管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の生活リズムやペースを大切にして、ゆったりと過ごせるように努めている。大まかな1日の流れはあるが、その日の状況や利用者の体調に合わせ時間や場所を変えるなど利用者本位に柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は米研ぎ、調理や味見、食堂のセッティング等それぞれできる事を分担しながら、職員と共に行っている。同じテーブルを囲んで和やかに食事をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から一人ひとりの希望にあわせて入浴し、沐浴剤を使用したお風呂で温泉気分を味わっている。入浴拒否のある方にはタイミングを見て誘ったり、清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの得意な事やできる事を把握しており、書や絵画、編み物など趣味を活かす取り組みを行い、調理や掃除、野菜作り等の役割分担により生きがいを持てるように支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課としており、天候や利用者の体調を考えながら近所の散歩、買い物、ドライブなどに出かけている。また季節によりお花見やコスモス見学、紅葉狩りなど全員参加の野外行事を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を理解し、危険を回避するための対策をたて怪我や事故防止に取り組んでいる。しかし転落の危険のある玄関の自動ドアは、家族の了解を得てボタンで開閉できる仕組みにしている。理解できる利用者にはボタンの押し方を教え施錠している。	○	利用者の行動パターンを理解して常に利用者の動きを見守り、施錠しないで過ごせる工夫検討が望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害マニュアルを整備して地域の人々へ呼びかけ、年2回訓練を実施している。1度は消防署の立会い指導の下で訓練を行い、地域からの自主的な参加協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月の介護状況が一目で分かる一覧表に毎日の食事量や水分摂取量を記録し、職員全員で把握している。調理師免許を有する職員が利用者の好みを聞いて献立を立て、カロリー計算も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は広くはないが日当たりがよく明るい。遮るものがなく何処からでも職員や利用者の動きが分かり、ふれあいの機会も多い。くつろげる量の間やすわり心地のよいソファが備えられ、季節を感じる飾りや行事の写真を掲げて心地よく過ごせる工夫をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「自宅に居るように」と本人や家族と相談しながら馴染みの物やベッド等が持ち込まれている。本人や家族の写真が飾られ、テレビや冷蔵庫、レコードプレーヤ、昔懐かしい衣桁などもあり、それぞれに個性のある生活の場となっている。		